

発見!おごおり遺産

No.17 大保原合戦とこれから

「日本三大合戦」の一つとも言われる「大保原合戦」(大原合戦)。市内には関連する史跡などが多く残され、地域に根付いた文化遺産となっています。



「大原古戦場碑」



花立の千人塚



福童の將軍藤

時

は1359年8月6日、ここ小郡で九州南北朝最大の合戦「大保原合戦」(大原合戦)の火蓋が切られました。当時は朝廷が2つに分かれて争う南北朝の時代。日本全国が争乱に明け暮れる日々でした。

この合戦は、南から大宰府進出を狙う南朝方(懐良親王・菊池武光)と大宰府を守る北朝方(少弐頼尚ら)の戦いです。当時の軍紀物語『太平記』には南朝方八千余騎、北朝方六万余騎とありますが、実際は互角に近い軍勢であったと想定されます。戦いは深夜2時に始まり、午前10時ごろには南朝方の優勢で終わりました。詳細な記録は残されていませんが、『太平記』によると討死は5,400人以上に上り、その激しさを物語っています。

市内には、当時の様子を伝える文化遺産が数多く残されています。市役所隣の東町公園にあるのが「大原古戦場碑」です。この碑は100年以上前に建てられ、その後も600周年、650周年の記念碑が建てられました。なお、昨年660周年を記念した各種イベントが実施されたことは、記憶に新

しいところです。

県指定天然記念物「福童の將軍藤」は、征西將軍懐良親王がその名の由来です。合戦で負傷した親王が、大中臣神社の加護によって全快したことに感謝し、藤を奉納したと伝えられます。

ひまわり館東野周辺には、「善風寺」があったと考えられています。この寺は、合戦で亡くなった人を弔うために、南朝・北朝双方が協力して建立したと伝わります。戦後の復興の象徴です。

甘木鉄道花立踏切の北側に、小さな石が建っています。自然石に「千人塚」と刻まれたこの碑は、やはり合戦で亡くなった人を弔うために立てられました。以前は大きな塚があったそうです。

令和元年10月14日、「南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会」が発足しました。これは、南北朝時代に関連する歴史・文化資源を活用して広域で事業を行うもので、参加するのは小郡市、久留米市、うきは市、八女市、大刀洗町、熊本県菊池市です。今後は郷土の歴史を広く周知するため、各種連携事業を展開する予定です。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと